

# 2022 年度／令和 4 年度 事業報告

2022 年／令和4年4月1日～2023 年／令和5年3月 31 日

# 2023 年度／令和 5 年度 事業計画

2023 年／令和5年4月1日～2024 年／令和6年3月 31 日

2023 年／令和 5 年4月1日

学校法人田名橋学園

和田幼稚園

# 目次 2022 年度／令和 4 年度 和田幼稚園 事業報告

## 第 1 節 法人・幼稚園概要

## 第 2 節 事業報告

幼稚園行事(事業)の大要実施報告

学事報告

研修報告

子育て支援事業報告

健康管理事業報告

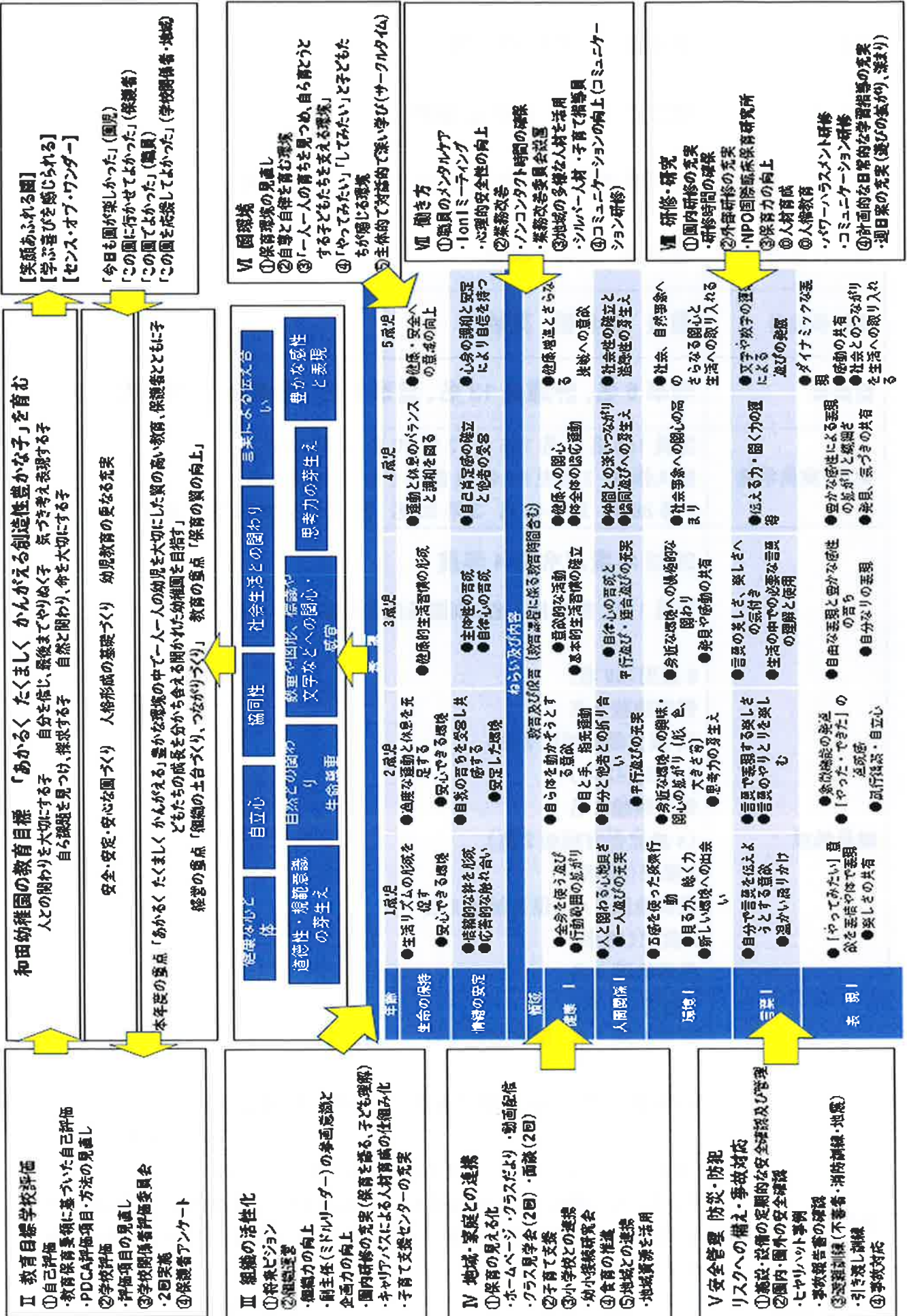
## 第 3 節 学校評価

教育保育要領に基づいた自己評価

保護者アンケート

## 第1節 法人・幼稚園概要

設置者	学校法人 田名橋学園
学校名	認定こども園 和田幼稚園
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町和田 3 丁目 6 番 1 号
法人代表者	理事長 池田 敏明
学校長氏名	園長 田名橋 真敏
役員等	理事 6 名、評議員 13 名、監事 2 名 理事会・評議員会
定員・実員学籍	定員 155 名(1 号 105 名 2 号 20 名 3 号 30 名) 新入園児 3 歳児 23 名 4 歳児 6 名 5 歳児 0 名 1 号 88 名 2 号 42 名 3 号 20 名 計 150 名(2023/3/1 現在)
職員構成	2022 年度／令和 4 年度 園長 1 名、事務長 1 名、副園長兼主任保育士 1 名  5 歳児(39 名) 保育教諭 2 名 (5 歳児保育補助 2 名) 4 歳児(42 名) 保育教諭 2 名 (4 歳児保育補助 2 名) 3 歳児(40 名) 保育教諭 2 名、保育補助 2 名 2 歳児(18 名) 保育教諭 3 名 1 歳児(11 名) 保育教諭 2 名、保育補助 1 名  保育補助 7 名(預かり保育担当含む)、調理 6 名、栄養士 1 名 計 35 名 産休・育休 4 名
建学の精神	「あかるく たくましく かんがえる人間性豊かな子どもをめざす」 子どもたちの根っこ(心)と体を育て、豊かな心をもち人との関わりを大切に する子、自分を信じ最後までやり遂げる子、気づき考え行動できる子を目標に、「 生きる力」「生き抜く力」を養っていく。



## VI 園環境

- ①保育環境の見直し
- ②自尊と自律を育む環境
- ③「一人一人の育ちを見つめ、自ら育とうとする子どもたちを育てる環境」
- ④「やってみたい」「してみたい」と子どもたちが輝く環境
- ⑤主体的で対話的で深い学び(サークルタイム)

## VII 働き方

- ①職員のメンタルケア
- ・1on1ミーティング
- ・心理的安全性の向上
- ②業務改善
- ・ノンコンタクト時間の確保
- ・業務改善委員会設置
- ③地域の多様な人材を活用
- ・シルバーパーソン・子育て指導員
- ④コミュニケーションの向上(コミュニケーション研修)

## VIII 研修・研究

- ①園内研修の充実
- ・研修時間の確保
- ②外部研修の充実
- ・NPO国際臨床保育研究所
- ③保育力の向上
- ④人材育成
- ⑤人権教育
- ・パワー・ハラースメント研修
- ・コミュニケーション研修
- ⑥計画的な日常的な学習指導の充実
- ・週日課の充実(遊びの遊び、読み)

## 第2節 事業報告 幼稚園行事(事業)の概要実施報告

04/02	幼稚園入園式	06/20	個人面談開始	01/04	特別預かり保育(~6日)
04/01	特別預かり保育(~6日)	06/27	水あそび開始	01/10	3学期始業式
04/07	幼稚園始業式	07/13	ペンギン一座(年長)	01/20	誕生会(1月)
04/07	年少午前保育(~15日)	07/22	誕生会(7・8月)	02/01	クラス見学(夏1)
04/22	誕生会(4月)	07/27	防犯教室	02/02	クラス見学(夏2)
05/12	内科検診	09/16	誕生会(9月)	02/03	誕生会(2月)
05/13	誕生会(5月)	10/08	ミニ運動会	02/06	クラス見学(つぼみ)
05/19	クラス見学(秋1)	10/13	ミニ運動会予備日	02/07	クラス見学(はる)
05/20	クラス見学(秋2)	10/15	ミニ運動会予備日	02/08	クラス見学(秋1)
05/22	誕生会(5月)	10/21	誕生会(10月)	02/09	クラス見学(秋2)
05/26	クラス見学(冬1)	10/25	園外保育(年長)	02/13	個人面談開始
05/27	クラス見学(冬2)	11/10	内科検診	02/21	交通安全教室
05/29	評議会・理事会	11/15	劇あそび	02/25	保育園説明会(新)
05/31	園外保育(年長)	11/18	誕生会(11月)	02/28	クラス見学(冬)お別れ会
06/01	クラス見学(夏1)	11/26	新入園児面接	03/03	誕生会(3月)
06/02	クラス見学(夏2)	12/02	誕生会(12月)	03/04	在園児説明会
06/03	歯科検診	12/10	発表会(1・2・3歳)	03/09	思い出遠足(年長)
06/04	防災訓練(引渡し訓練)	12/17	発表会(4・5歳)	03/17	終業式
06/06	クラス見学(つぼみ)	12/20	餅つき(年長)	03/18	卒園式
06/07	クラス見学(はる)	12/21	2学期終業式	03/25	辞令交付・職員研修
06/10	誕生会(6月)	12/22	特別預かり保育(~28日)		
新型コロナウイルス感染予防をし、行事等を実施予定。筆あそび(年長) 運動あそび(年長) 創作ダンス(年少・年中・年長) 英語あそび(年少・年中・年長) そろばんあそび(年長) (お話会 年間3回)					
毎月1回 園内研修(職員参加) 食育会議(学期毎)					
篠栗町園巡回相談(6月13日、2月21日)					
学校関係者評価・自己評価(職員)・保護者アンケート実施(2月)					

### ◆学事報告

1歳児 11人 2歳児 18名 3歳児 40名 4歳児 42名 5歳児 39名

1号 88名 (満3歳児9名) 2号 42名 3号 20名 計 150名

篠栗町在籍 140名

粕屋町在籍 5名

久山町在籍 4名

須恵町在籍 1名

(うち通園バス利用園児 24名(往きのみ9名、帰りのみ1名))

2022 年度					
市町村	就学小学校	人数	市町村	就学小学校	人数
篠栗町	北勢門小学校	17 名	久山町	久原小学校	1 名
	勢門小学校	10 名	粕屋町	大川小学校	1 名
	篠栗小学校	9 名		粕屋中央小学校	1 名
			須恵町	須恵第三小学校	1 名
					39 名

## ◆研修報告

開催時期	研修・事業名	研修主体	研修内容	備考
3 月 26 日	全体研修		経営要綱・全体的な計画	中部消防署応急手当
	学校関係者評価		学校経営、人材育成、学校評価	
	職員アンケート			
	主任・副主任会議			
4 月 4 日	職員会議	安全管理委員会	事故発生時 アレルギー対応他	
4 月 5 日		セルフケアラーニング中里氏	コミュニケーションスキル	
4 月 16 日	園内研修	防災委員会	学校安全計画	
		アドラー心理学講師	コミュニケーションスキル	
5 月 28 日	外部研修	藤原里美先生	特別支援	
6 月 10 日	幼小接続	西川正晃先生	幼小接続	小学校教諭・近隣保育士
6 月 25 日	保育環境	横尾泉先生	保育環境(玩具)	
	園内研修	安全管理委員会	安全管理(水遊び)他	
7 月 23 日	外部研修	藤原里美先生	特別支援フォローアップ	
	園内研修	副主任・各担任	一学期振り返り	
	食育会議	調理・栄養士		
8 月 27 日	外部研修	神野範子氏	メンタルヘルス	
9 月 10 日	外部研修	セルフケアラーニング中里氏	コミュニケーションスキル	
	園内研修	副主任・各担任	運動会に向けて	
10 月中旬	職員ヒアリング		次年度意向調査	
10 月 15 日	園内研修	副主任・各担任	運動会振り返り	
11 月 17 日	幼小接続	西川正晃先生	公開保育(年長)	小学校教諭・近隣保育士
11 月 26 日	園内研修	副主任・各担任	生活発表会に向けて	
12 月 24 日	園内研修	各担任		
1 月 28 日	外部研修	セルフケアラーニング中里氏	コミュニケーションスキル	
	食育会議		1 年間の振り返り	
2 月 25 日	園内研修	副主任・各担任	次年度引継ぎ他	
3 月 25 日	辞令交付	副主任・各担任	園のビジョン他	新入職職員参加

## ◆子育て支援事業報告

### ① 預かり保育

7時30分から8時30分、14時30分から17時30分まで園児を預かり異年齢児による活動を実施した。  
 (1月から3月までは、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、異年齢の関わりは行わず、学年毎で活動)  
 また、8月夏季長期休暇中(夏休み)に18日間、冬季長期休暇中(冬休み)に8日間、春季長期休暇中(春休み)に12日間、8時から17時30分まで(7時30分～8時をR3年度から実施)預かり保育を実施した。  
 (R3年度 210日延べ4643人一日平均22.1人)

通常預かり保育 令和4年4月～令和5年3月		冬季長期休暇中(冬休み)	
預かり保育日数	202日	預かり保育日数	8日
預かり保育延べ利用園児	5540人	預かり保育延べ利用園児	85人
一日平均園児数	27.4人	一日平均園児数	10.6人
夏季長期休暇中(夏休み)		春季長期休暇中(春休み)	
預かり保育日数	18日	預かり保育日数	13日
預かり保育延べ利用園児	214人	預かり保育延べ利用園児	189人
一日平均園児数	11.8人	一日平均園児数	14.5人

### ② 課外授業

課外教室を展開し「子育て支援」として位置付ける。幼稚園生活と課外教室の連携を図る。  
 ピアノ教室(月10名、木9名)・ダンス教室(18名)・そろばん教室(13名)・体操教室(年中16名、年長32名)を実施した。

### ③ 園庭開放

2月4日、2月18日に、就園前園児を対象に園庭開放を実施。

2月4日(8組)、2月18日(10組)参加。保護者と参加していただき、幼稚園のことを知ってもらい入園に対して安心できる機会となった。

## ◆健康管理事業(園児・職員)令和4年度中に下記の健康管理を実施した。

- ① 年間を通じて毎月、身長、体重の測定。アプリで確認(保護者)
- ② 学校保健法により健康診断を実施。内科検診5月12日・11月10日、歯科検診6月3日実施。
- ③ 予防接種歴・罹患歴調査票で園児の情報を保護者と共有
- ④ 全職員健康診断を義務付け、実施している。新型コロナウイルスワクチンの推奨。

期間	病名	人数
令和4年7月	新型コロナウイルス	年中2名 年長3名(職員3名)
	ヒトメタニューモウイルス	2歳児5名 年少5名
令和4年8月	新型コロナウイルス	年中6名 年長7名(職員5名)
令和4年9月	新型コロナウイルス	年中4名 年長1名(職員1名)
令和4年11月	手足口病	2歳児5名 年中1名
令和4年12月	新型コロナウイルス	年少1名 年中1名 年長1名
令和5年1月～2月	新型コロナウイルス	1歳児2名 年少3名 年中2名 年長8名(職員4名)
	インフルエンザA型	年少8名 年中2名 年長2名
令和5年3月	ヒトメタニューモウイルス	2歳児2名 年中8名
令和4年4月～令和5年3月	リンゴ病、ウイルス性胃腸炎他	(4月新型コロナウイルス 職員2名)

### 第3節 学校評価

評価項目		
項目	内容(取り組み)	評価
1. 保育について	<p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく。</li> <li>●各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点(あかるく、たくましく、かながえる)を確認し合う。</li> <li>●これからの社会で必要な育ちを確認</li> <li>●教育保育要領の理解を深めていく</li> <li>●子どもの育ちを見取り、説明していく</li> </ul>	<p>2019年度から進めてきた「子どもの主体性」を大切にする保育も徐々に拡がりつつあることを実感している。これからの社会に必要な「生きる力」:「人との関わり」「自己肯定感」「自尊と自律」「探求心」「命」を大切にする保育について全体でさらに共有していく。</p>
2. 教育目標 学校評価	<p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自己評価:教育保育要領に基づいた自己評価 PDCA 評価項目・方法の見直し</li> <li>●学校評価:評価項目の見直し</li> <li>●学校関係者評価</li> <li>●保護者アンケート</li> </ul>	<p>教育保育要領に基づいた自己評価、保護者アンケートを実施し、次年度の事業計画作成に反映させていく。園のランドデザインを作成し、学校評価項目を昨年度より絞り、さらに選ばれる園、保育の質を高めていく。</p>
3. 組織の活性化	<p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●将来ビジョンの共有:全職員での研修を行い、園の理念の確認を実施する</li> <li>●組織力の向上:園務分掌による役割分担(一人一人が当事者意識をもつ)</li> <li>●副主任(ミドルリーダー)の参画意識と企画力の向上</li> <li>●園内研修の充実(保育を語る、子ども理解)</li> <li>●キャリアパスによる人材育成の仕組み化</li> <li>●子育て支援センターの充実</li> </ul>	<p>園内研修において、「心理的安全性」「コミュニケーションスキル」を取り入れ、保育者間の同僚性を高めていけるように研修を行った。次年度はさらに「子どもの姿」「保育について」対話を重ねていける組織づくりに注力していきたい。保育補助を含めた保育者間での園内研修等。</p>
4. 地域・家庭との連携	<p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●保育の見える化(HP、クラスだより、動画配信、クラス見学会、…)</li> <li>●子育て支援開設(コロナのため中止)・子育て支援の研修会を開催</li> <li>●小学校との連携(幼小接続研究会)</li> <li>●食育の推進(野菜栽培の促進)</li> <li>●地域との連携(地域の田んぼを利用(田植え体験)、園芸店見学等)</li> <li>●保育者一日体験(保育体験、試食会)</li> </ul>	<p>1学期は保育参観、個人面談、2学期は運動会、生活発表会、保育者一日体験、3学期は保育参加、個人面談。クラスだよりやHPを活用し、子どもの興味・関心、育っている姿を保護者と共有していった。小学校接続研修を行うなど、保育について学ぶ機会を作ってきた。</p>
5. 安全管理 防災・防犯	<p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●リスクへの備え・事故対応</li> <li>●施設・設備の定期的な安全確認及び管理</li> <li>●園内・園外の安全確認</li> <li>ヒヤリハット事例・事故報告書の確認と共有</li> <li>●避難訓練(不審者・消防訓練・地震) 引き渡し訓練</li> <li>●事故対応(救命救急研修・食物アレルギー研修)</li> </ul>	<p>定期的な安全確認及び管理を今年度も続けている。避難訓練においては、月に1回の避難訓練、保護者と園児引渡し訓練を実施。課題を抽出し、改善している。事故においても、重大事故はなく、事故報告書・ヒヤリハット事例を作成し、全職員で共有している。</p>



6 . 園 環 境	(具体的な目標や取組) ●保育環境の見直し ●自尊と自律を育む環境 ●一人一人の育ちを見つめ、自ら育とうとする子どもたちを支える環境 ●「やってみたい」「してみたい」と子どもたちが感じる環境 ●主体的で対話的、深い学びの促進	安心感と居心地感を基盤にし、環境を整えてきた。子どもたちは安心・安定した環境の中、自分で選んで自分で決める、遊びに夢中になり遊び込む姿が見られるようになった。遊びのひろがりや深まり(探求する)の点では、さらに子どもを観察し、環境構成していく。
7 . 働 き 方	(具体的な目標や取組) ●職員のメンタルケア -主任、副主任を配置し、同僚で相談できる関係をつくる (メンター制)-1on1ミーティング -心理的安全性の向上 ●業務改善-やりがい・働きがいのある職場環境 -ノンコンタクト時間の確保 -業務改善委員会の設置 ●コミュニケーションの向上(コミュニケーション研修) ●地域の多様な人材の活用(シルバー人材・子育て指導員等)	4月から義務化される「ハラスメント」への研修、コミュニケーション研修を実施しているが、職員間の人間関係を構築する難しさを感じた。ノンコンタクトタイム、保育補助の充実等による業務改善により働き方を見直し、働き方の多様性を尊重しながら、働きがい、やりがいのある職場づくりを進めていく。
8 . 研 修・ 研 究	(具体的な目標や取組) ●園内研修の充実・研修時間の確保 ●外部研修の充実 ●保育力の向上 -人材育成(学び続ける人材の育成) -人権教育(パワーハラスメント、コミュニケーション) ●計画的・日常的な保育指導の充実 -週日案の充実(遊びの拡がり、深まり)	土曜日を園内研修に活用することによって、外部研修や園内研修で職員間で対話する機会を得ることができた。次年度は、さらに「主体性」「子ども理解」等について、職員間で対話をし、「子どもにとって」の最善の利益を考え、保育していく。月案・週案の記録の見直しにより、遊びのひろがりや子どもの声を聞き保育を子どもたちと作っていくこと、保育の見える化を進めていく。

### ◆令和4年度評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	組織運営「つながり」	B	業務改善を職員間で行い、持ち帰り仕事等が減少。福利厚生等を含め、働きやすさにつながった。
2	保育の質向上(保育者の質向上)	B	園内研修での外部研修の活用等
3	保育環境の見直し	B	子どもとの対話、保育者の環境構成をさらに活性化

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

### ◆総合的な評価結果(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

評価	理由
B	職員間の心理的安全性を確保し、保育環境を見直し、保育の質を向上することを目標に一年間取り組んできた。オンライン研修等を積極的に活用し、学び続ける人材を育成することにも努めてきた。その結果、一人一人の職員の保育観、子ども観、保育技術については昨年よりも高まった。一方で職員間の関係の質を高めることは困難であった。コロナ禍でコミュニケーションが取れないことも要因ではあり、今後の課題である。令和5年度は、懇親会、園内研修における対話、等を通して、他者理解、「お互いさま」助け合える組織づくり、そして原点に戻り「保育の面白さ、すばらしさ」を仲間と分かち合おうを目標に、保育を通してチームワークを構築していく。

2022 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

法人名  
田名橋学園

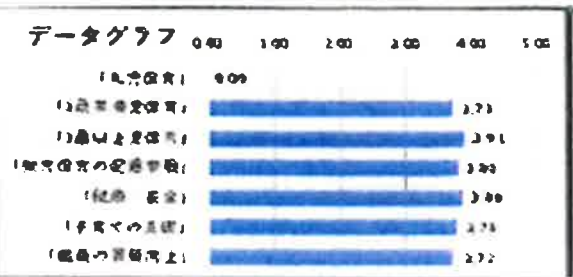
園名  
和田幼稚園

まとめ

第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児保育が人格形成の土台をつくっていく。愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して、愛着関係を形成し、人に対する基本的信頼関係を築っていく。周囲の大人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感し、自己肯定感を育んでいく。安心である、安定した環境の中で活動体験がひろがり、興味しながら世界を知っていく。保育者が園児一人一人の存在を大切に感じ、温かい家庭的な雰囲気のもとに、愛情をより注いでいきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	健全な育ちを促し、一人一人と丁寧に関わることで、生活が安心・安定し、子どもたちが安心感を持ち進んで暮らすことを大切にできた。その安心感を基盤に、基本的信頼感を育み、一人一人の心情・意欲が育っていくように進退と教育を一体的に行ってきた。「愛着を土台として、生きる力を持つていく」。基本的信頼感を育んでいるからこそ、「だいすきな」保育者を見本とし、生活の流れを共有していく、「自分でしたい」自覚が育っていくことができる。より一人一人の思いを表情や声から読み取り、応答的・共感的に関わりながら、子どもたちが「自分でしたい」という思いや願いを尊重しながら、一人一人の発達や生活の自立を温かく見守り援助していく。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	今年度もワークタイムや保育環境の見直しを行ってきた。「安心感や居心地感を大切に」保育環境を見直し、子どもたちが安心して、環境に自ら関わっていくように準備をしてきた。子どもたちは自分で、友達と遊びに夢中になって充実感や満足感を味わっている。子どもたちにとって、「遊びことは生きること」。遊びことで脳が活性化し、学びにつながっている。遊びながら、五感を通して学ぶ喜び、世界の仕組みを知っていく。体験したことを活かしながら、遊びを広げ、思考を広げていっている。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	「子どもたちを真ん中に」保護者と関わり協力して子どもたちの育ちを支えていく。新型コロナウイルス感染症の感染予防を行いながら、1学期にクラス委員会、由緒、2学期に運動会、一日保育士体験、生活発表会、3学期に保育参加、遠足を実施してきた。一日保育士体験では、保護者が保育に入ることで保育への理解や園生活での子どもたちの育ちを知る機会になり、また給食の試食会などを行い、日頃の子どもたちの様子を知らせてもらう機会になった。子どもたちにとって、保護者の方が園で共に生活することで人への関心や他者理解へとつながっていています。
第3章 健康及び安全	コロナ禍の中、健康、食育、安全管理、対応訓練等を保育者、そして保護者の理解のもと実施してきた。食育については、コロナの影響を受けながらも、子どもたちの食への関心や興味、查べる喜び、作ってくれる人との関係など様々な取組みを実施することができた。園児引渡訓練、一日保育士体験等や日常の保育を保護者と子どもたちと園で共に作っていくが「子どもを真ん中に」次年度も取り組んでいきたい。園児の健康増進や食育の充実等の取組は子どもたちの生命の保持・情緒の安定につながっていく。看護師・栄養士・調理師・保育者と連携しながら、子どもたちの健康や安全に取り組んでいく。
第4章 子育ての支援	虐待や不適切な保育、貧困、社会の変化が子どもを取り巻く環境をよくない方向に向かわせている。新型コロナウイルスの影響で、園内で保育を体験する機会はないが、園外で子どもたちが元気に体を動かす様子や、誰かに遊ぶ経験ができるような機会をつくってきた。クラスがよりにおいても、遊びの中の子どもたちが今何を感じて、何に興味をもっているのか、何が育っているのか、子どもたちの姿を伝えている。保育に共に関わってもらうことで、子どもを知り、子育てを愛しめる。保護者と共に子育てを楽しむ環境づくりを次年度も取り組んでいく。
第5章 職員の実質向上	職員の質向上において、業務改善と保育の質の両輪をバランスを取りながら実施する必要がある。業務改善においては、記録（月案・週案）を見直し、ノンコンタクトタイムを設けてきた。これにより、業務改善につながり、働きやすさにも影響している。保育の質においては、リーダー層の「やってみよう」という挑戦する心持ちが園の保育を大きく変えてきた。子どもたちの遊びの環境や保育の仕方等、経験で学んだことを実践に活かしながら、子どもたちと共に園の生活をつくっていった。次年度においては、研修機会を確保し、研修内容等の見直しを進めていく。遊びの広がりや子どもの心についての多岐な研修を準備し、保育者の地中を広げていく機会を創っていく。また、園内研修や日々の振り返りの質を高めることで、さらに園の保育が充実していくと思う。幼小連携など受け入れの子どもの育ちを小学校と交流をしながら進めていく必要がある。
総合	「子どもが主体的に遊び、自ら環境に関わっていく」姿が昨年度よりもより多く見られるようになった。安心感と居心地感を大切にできた保育環境。遊び・玩具などの量を増やし、自ら遊び決めていけるように自律と自責を大切にできた結果が大きく影響している。子どもたちは情緒が安定し、様々な環境に自ら関わりながら遊んでいる。「0歳からの保育の大切さ」、「10歳からの育ちの連続性」乳児期におけるアタッチメントからの愛着の形成、基本的信頼感の獲得。人と人との関係性のなかで人は育っていく。1・2歳児から始まる実践し、一人一人の子どもたちと丁寧に関わっていくことを大切にできた。乳児保育という人格形成の土台づくりの時期が今後の社会の未来を作っていく。今年度も保育環境、組織づくり、保育の質について進歩的に取り組んできた。「環境が変われば、子どもたちが変わる」「社会が変われば、子どもたちが変わる」を合言葉に、保育環境の大切さ、保育者の丁寧な関わり大切さを再認識する一年になりました。小学校との経験や地域社会との関わりにおいては、小学校と研修機会をもち、保育や子どもたちについて共に学びました。小学校と園と共に子どもたちについて考える時間を次年度も実施していく。また、子どもたちが地域の中の、生き生きと輝く社会を作っていく必要がある。小学校との交流会や田植え、こども園に働く見学、グリーンセンターでの買い物、地域と関わりながらさらに開かれた幼稚園を進めていく。子育て支援では、一日保育士体験を実施し、保護者の方に保育、園の生活、保育の仕事、給食について体験してもらいました。保護者と共に育っていく学んでいく関係を築いていく。保育の専門性を高めながら、子どもたちにとって最高の利益を育み、一歩一歩進んでいく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	0	0.00/0.01
「3歳未満児保育」	32	3.73
「3歳以上児保育」	53	3.91
「保育実践の配慮事項」	16	3.80
「健康・安全」	29	3.88
「子育ての支援」	18	3.78
「職員の実質向上」	9	3.72
計	157	3.83



## ◆今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	子どもの人権	「温かい眼差し」 ハラスメントの理解、「一人一人を丁寧に保育するとは」
2	心理的安全性 多様性の尊重	「心理的多様性を豊かにする組織づくり」「学び続ける組織づくり」 勤務時間の確認、有給休暇、意識改革「お互いさま」の精神、相互尊重
3	保育内容 環境構成(しかけ)	「対話」と「環境構成(しかけ)準備」(そして振り返り) 玩具と絵本の活用(玩具や絵本の実践)(保育者間で共有) 園内研修での対話の機会を増やしていく

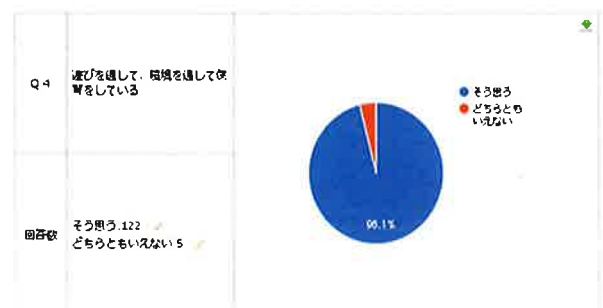
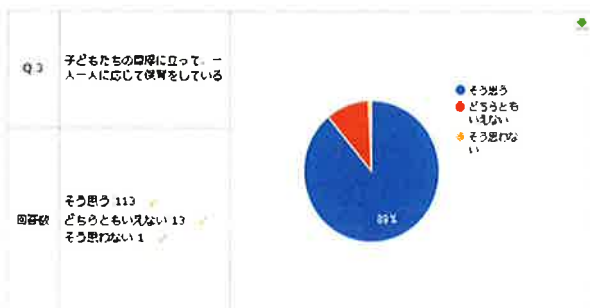
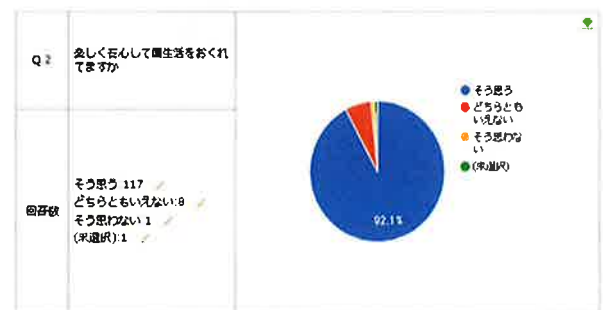
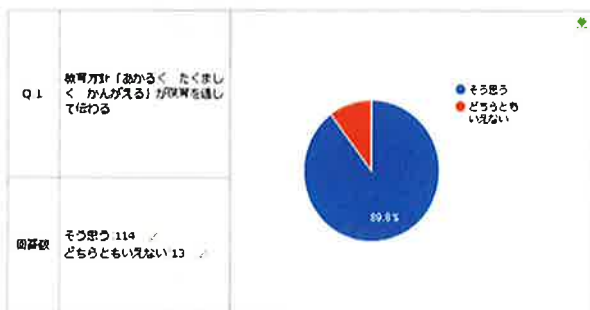
## ◆学校関係者評価委員会の評価

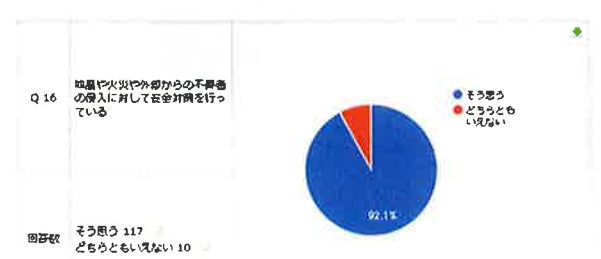
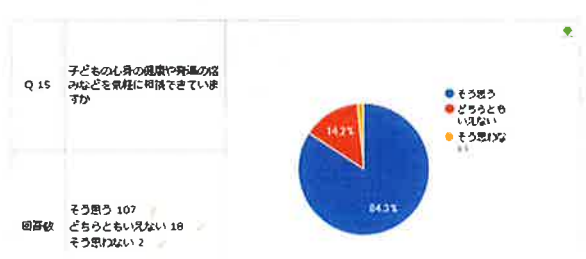
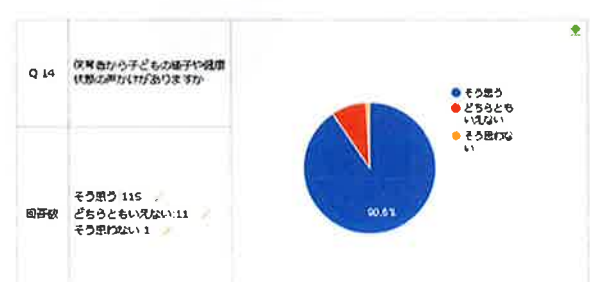
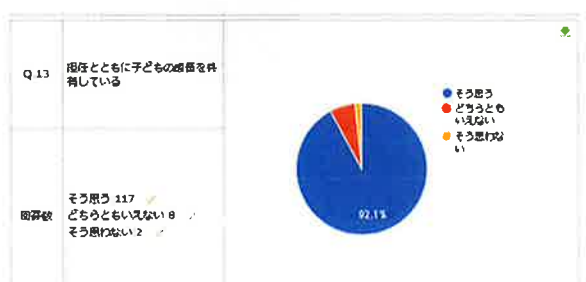
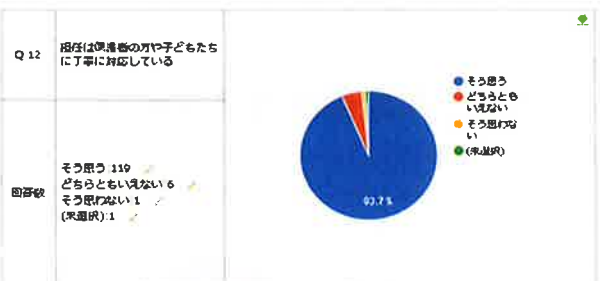
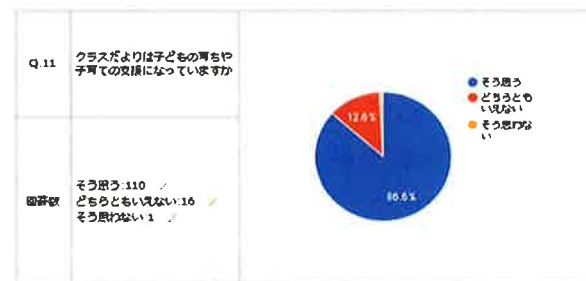
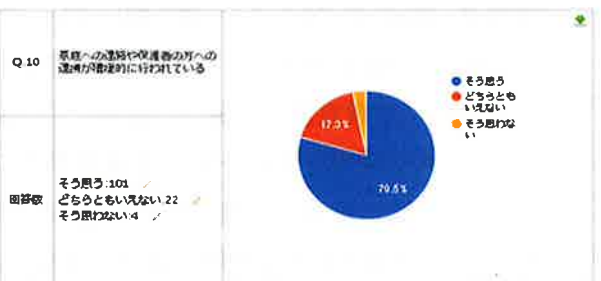
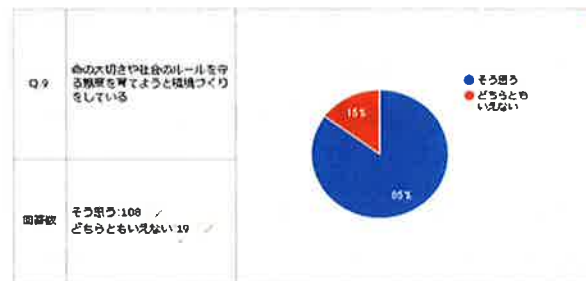
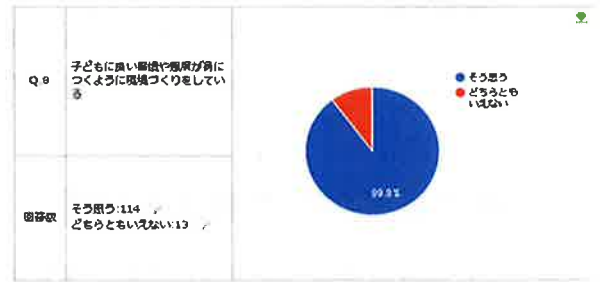
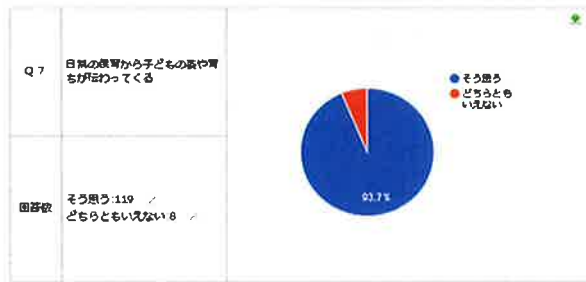
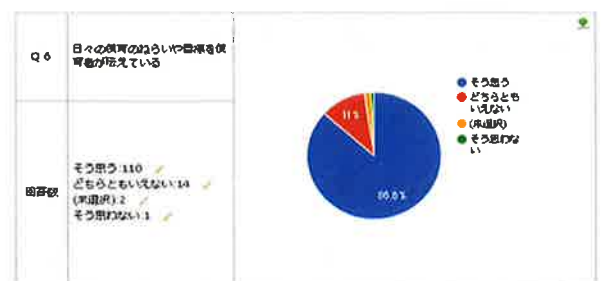
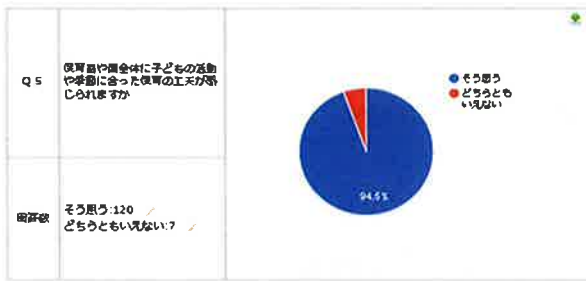
3月6日に学校関係者評価委員の皆様に見学していただきました。

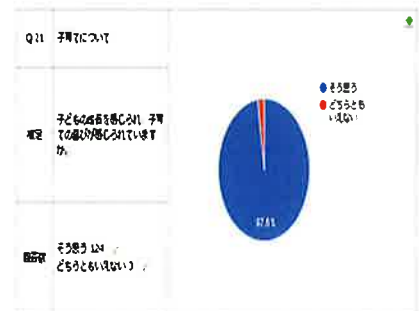
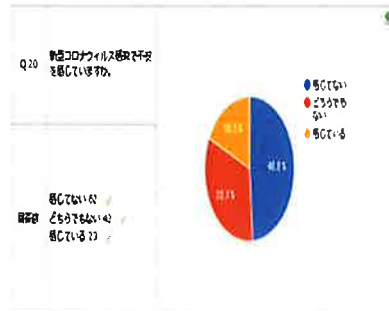
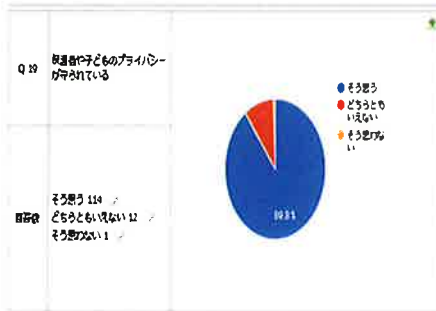
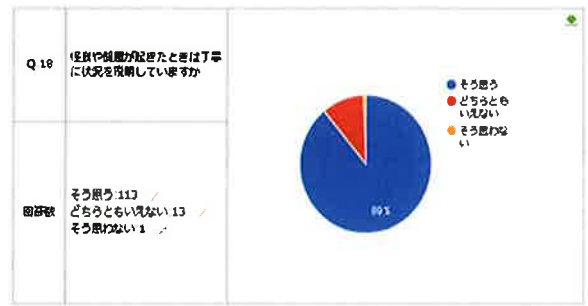
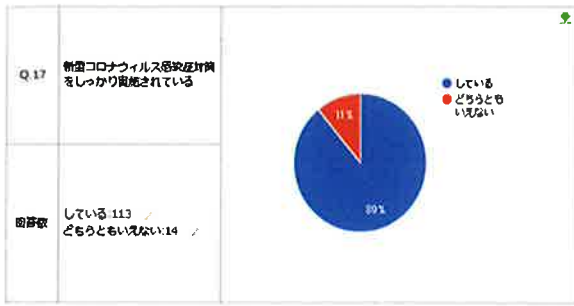
「保護者・地域・子どもたち」に園を開いていっているのが伝わってくる。また、保育内容に関しても、研修の機会を持ち、保育者の気づきの場になり、保育実践に活かされている。保育環境については前年よりもよくなり、子どもたちが落ち着いて遊びに集中している姿が見られる。一日保育士体験や保育参加を通して、保育や子どもを共に理解する場を作り、保護者支援にもなっている。

説明会等で園の沿革を説明したり、保護者と話し合える時間を作るなど、さらに保護者支援を推進していくこと、食育の大切さを乳幼児期の大切な時期だからこそ、園を通して伝えていくことが大切であることを助言していただきました。

## ◆令和4年度保護者アンケート







## ●保護者アンケートコメントより

コロナ禍で先生方も大変な中、子供達のために安全対策を取りながら保育して頂き、ありがとうございます。子供達が楽しく園生活を送れるのも先生方のお陰です。また、園での様子を動画やブログ等で配信して頂けるのもとてもありがたく思っています。来年度もよろしくお願い致します。

いつも丁寧な保育ありがとうございます。先生方の声掛けや手立てを参考に家庭でも活動することがあります。来年度またたくさんの経験ができること、楽しみにしています。

日々の様子や、1年前の子どもと現在の子どもの成長等を見て、幼稚園に入園させて良かったなとつくづく感じています。ダメなことはしっかりダメだと教えていただいているおかげで、入園してから更にしっかりした気がします。子ども自身も集団生活を通して学ぶ事が多いかと思えます。母子ともに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

園だよりや発表会、クラス見学など子供の様子をみることができたり、担任の先生からも気づいたことやその日あったことなど送迎時に教えて頂いたりしたので安心して子供を預けることができました。これからも宜しくお願いします。

最初幼稚園に入った時はあまりに自分で出来なかったことが徐々に出来るようになり、お友達もたくさん出来て遊んだり楽しんだり、お話ししたり、いろんな事を学んで成長してるのが日々感じます。これからの成長を見守りながら、ご指導を宜しくお願いします。

# 目次 2023年度／令和5年度 和田幼稚園 事業計画

## 第1節 法人・幼稚園概要

## 第2節 2023年度／令和5年度 幼稚園運営指針

## 第3節 グランドデザイン

## 第4節 組織運営体制

## 第5節 幼稚園行事(事業)の実施計画

研修計画

健康管理事業計画

子育て支援事業計画

保育環境整備事業

## 第1節 法人・幼稚園概要

設置者	学校法人 田名橋学園
学校名	認定こども園 和田幼稚園
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町大字和田3丁目6番1号
法人代表者	理事長 池田 敏明
学校長氏名	園長 田名橋 真敏
役員等	理事6名、評議員13名、監事2名 理事会・評議員会
定員・実員学籍	定員155名(1号105名 2号20名 3号30名) 新入園児 3歳児18名 4歳児5名 5歳児0名 1号77名、2号44名、3号21名(計142名(2023/4/30現在))
職員構成	<p><b>2023年度／令和5年度</b></p> <p>園長1名、事務長1名、副園長兼主任保育士1名</p> <p>5歳児(42名) 保育教諭2名、副担任1名 (5歳児保育補助1名)</p> <p>4歳児(43名) 保育教諭2名 (4歳児保育補助2名)</p> <p>3歳児(36名) 保育教諭2名、保育補助2名</p> <p>2歳児(12名) 保育教諭1名、保育補助2名</p> <p>1歳児(9名) 保育教諭1名、保育補助2名</p> <p>保育補助8名(預かり保育担当含む)、養護1名、 調理5名、調理兼栄養士1名</p> <p style="text-align: right;">計36名 産休・育休1名</p>
建学の精神	<p>「あかるく たくましく かんがえる人間性豊かな子どもをめざす」</p> <p>子どもたちの根っこ(心)と体を育て、豊かな心をもち人との関わりを大切にする子、自分を信じ最後までやり遂げる子、気づき考え行動できる子を目標に、「生きる力」「生き抜く力」を養っていく。</p>

## 第2節 2023年度／令和5年度 幼稚園運営指針

### ① 和田幼稚園経営の基盤

和田幼稚園(以下「本園」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号)及び子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)その他の関係法令を遵守して運営する。

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律及び子ども・子育て支援法の規定に従い、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を教育・保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

#### ○幼稚園教育の基本

(1)本園は、安心・安定した情緒と落ち着いた環境の中で、自ら学ぼうとする意欲を育て、健やかで豊かな心と体が育つよう教育・保育を行うものとする。(幼児期にふさわしい生活の展開:安定した情緒の下で自己発揮できる)

(2)本園は、幼児の自発的な活動としての遊びが心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として総合的に達成されるものとする。(遊びを通しての総合的な指導)

(3)本園は、教育・保育に関する専門性を有する職員が、家庭との密接な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、養護と教育を一体的に行うものとする。(一人一人の特性に応じた:個々の課題を見つけ、関わり方も変える)

### ② 田名橋学園の運営方針

#### (1) 安全・安定・安心な園づくり

子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように子どもたちの情緒の安定を図り、日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する。

#### (2) 人格形成の基礎づくり

挨拶や礼儀作法など基本的な生活習慣が身につくように援助し、自発的、主体的に行動できるように助長する(人格形成の基礎づくり)を推進する。

#### (3) 乳幼児教育の更なる充実(豊かな環境の中で、多様な経験をし、成長を促す)

遊びや活動、生活の中で、人・もの・コトに子どもたちが自ら関わり、その中で発見したり、気付いたり、工夫したり思考錯誤し、友だちと協力したりしながら、子どもたちの園生活が充実していくように関わっていく。

### ③ 教育理念「あかるく たくましく かんがえる創造性豊かな子を」

教育方針「あかるく、たくましく、かんがえる創造性豊かな人格形成の基盤を養うことを主な方針とする」

○あかるく、たくましく、かんがえる創造性豊かな子を目標とし、一人一人の関わりを大切にす

○自然を営む環境の中で、多様な経験をし、成長、発達を促す

○規則正しい生活習慣を身につけ自発的に行動できるように助長する

### ④和田幼稚園が目標とする子ども像

人との関わりを大切にす子(社会性の芽)

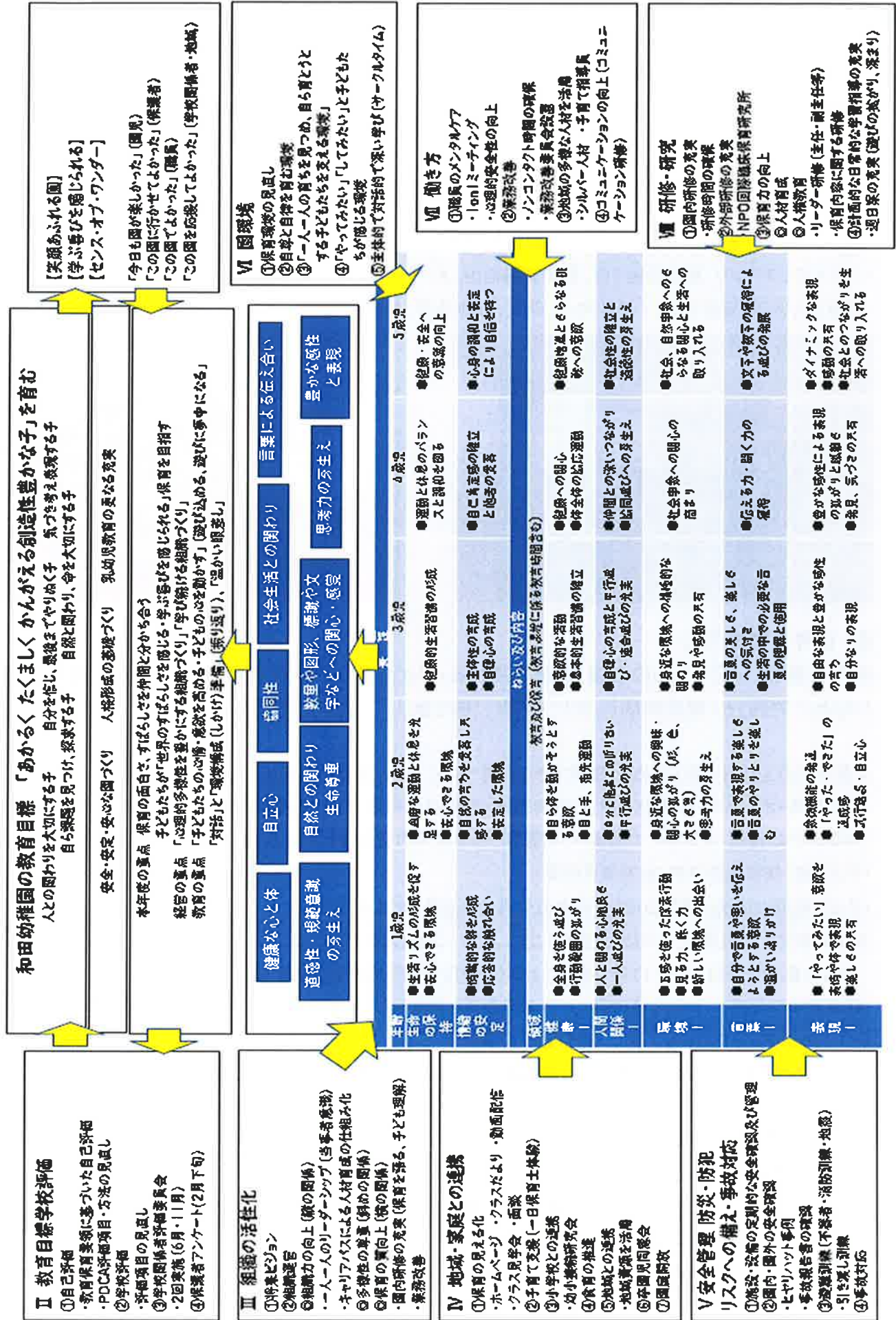
自分を信じ、最後までやり抜く子(自信の芽)

気付き、考えて、表現する子(主体性の芽)

自ら課題を見つけ、探求する子(探求の芽)

自然に関わり、命を大切にす子(命の芽)





## 第4節 組織運営体制

本年度の重点目標「保育の面白さ、すばらしさを仲間と分かち合う」

2023年度においても、「園務分掌」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図る。

### ①組織運営・職員の働き方

経営の重点「心理的多様性を豊かにする組織づくり」「学び続ける組織づくり」

- ・職場づくり(対話型園内研修、リーダー研修、懇親会、ヒアリング、業務改善)
- ・多様な働き方の促進(短時間勤務等) ・ノンコンタクトタイムの確保(バス添乗員:保育補助)
- ・園の人づくり(「あかるく、たくましく、かながえる」主体的な職員を目標に)
- ・1対1のヒアリング(職員の困り感、園の課題抽出、メンタルヘルス)(年3回実施予定)
- ・委員会の設置(安全管理、ハラスメント、防災、特別支援、業務改善)



### ② 保育の質の向上

教育の重点「子どもたちの心情・意欲を高める・子どもの心を動かす」(遊び込める、遊びに夢中になる)「対話」と「環境構成(しかけ)準備」(振り返り)、「温かい眼差し」

☆保育者の主体性(遊び込める・探求できる環境づくり) ☆人権意識の向上(乳児保育の学び)

- ・外部研修・オンライン研修の活用(○保育環境 ○遊びの研修 ○小学校との接続(幼小接続)○特別支援)
- ・篠栗町の幼稚園・保育園との連携(公開保育、保育者間の交流会)(幼小接続)(6月・11月実施予定)
- ・子ども園・保育施設見学(鹿部保育所等)
- ・子ども理解の促進と要領の理解、日々の保育の振り返りを職員間で行う

☆保育者同士の同僚性(心理的多様性)コミュニケーションの質を高める

職員会議(月一回)8時～13時(研修によって、保育補助等の保育者も参加)

- ・保育環境の見直し(シール帳の廃止、道具箱の持ち物見直し、食器見直し) ・ICT 化業務の効率化を促進(担任にPC・スマートフォン各1台) ・造形遊びの導入
- ・社会とのつながり、自然との関わり 自然環境への関わり、地域との関わり(九大の森散策等)

### ③ 保護者支援・子育て支援

- ・個人面談の実施(年2回)と保育参加(2回)(親子で触れ合える機会を増やす)
- ・卒園児同窓会 ・園庭開放(未就園児) ・(幼稚園)給食日の火曜日を給食か弁当の選択制にする
- ・行事の見直し(運動会に親子で触れ合う機会を取り入れる)
- ・保育の見える化(動画配信、誕生日 HappyDay、週一回保育の様子)
- ・クラス便りの充実(子どもの様子や育ちを保護者にドキュメンテーションしていく)各クラスの様子がより保護者に伝わるようにする(子どもの姿、子どもの育ちを説明していく)全職員が(子どもの様子)を共有できるように。

## 第5節 幼稚園行事(事業)の実施計画

04/01	幼稚園入園式	07/12	ペンギン一座(年長)	01/04	特別預かり保育(~5日)
04/03	特別預かり保育(~7日)	07/21	誕生会(7月)	01/09	3学期始業式
04/10	幼稚園始業式	07/26	防犯教室	01/26	誕生会(1月)
04/10	年少午前保育(~14日)	07/31	特別預かり保育(~25日)	01/29	保育参加(秋1)
04/21	誕生会(4月)	08/04	卒園児同窓会	01/30	保育参加(秋2)
05/11	内科検診	08/30	誕生会(8月)	02/01	保育参加(夏1)
05/15	保育参加(冬1)	09/12	お話し会	02/02	保育参加(夏2)
05/16	保育参加(冬2)	09/15	地域交流会(年長)	02/06	保育参加(はる)
05/22	保育参加(秋1)	09/16	運動フェスタ(1・2歳)	02/08	保育参加(つぼみ)
05/23	保育参加(秋2)	09/29	誕生会(9月)	02/13	個人面談開始
05/25	園外保育(年長)	10/07	運動フェスタ(3・4・5歳)	02/16	誕生会(2月)
05/26	誕生会(5月)	10/16	一日保育士体験開始	02/17	保育園説明会(新)
05/28	評議会・理事会	10/20	誕生会(10月)	02/22	交通安全教室
05/30	防災教室	10/26	園外保育(年長)	02/27	保育参加(冬)お別れ会
06/01	保育参加(夏1)	11/09	内科検診	03/01	誕生会(3月)
06/02	保育参加(夏2)	11/14	劇あそび	03/07	思い出遠足(年長)
06/03	防災訓練(引渡し訓練)	11/25	新入園児面接	03/09	在園児説明会
06/06	歯科検診	11/29	誕生会(11月)	03/16	卒園式
06/08	クラス見学(つぼみ)	12/09	発表会(1・2・3歳)	03/19	終業式
06/09	クラス見学(はる)	12/16	発表会(4・5歳)	03/21	特別預かり保育(~29日)
06/19	個人面談開始	12/20	誕生会(12月)	03/25	辞令交付・職員研修
06/26	水あそび開始	12/21	餅つき(年長)		
06/30	誕生会(6月)	12/22	2学期終業式		
07/11	お話し会	12/25	特別預かり保育(~28日)		
新型コロナ感染予防をし、行事等を実施予定。筆あそび(年長) 運動あそび(年長) 造形あそび(年長) 英語あそび(年少・年中・年長) そろばんあそび(年長) (お話し会 年間3回)					
毎月1回 園内研修(職員参加)(学期末:保育補助参加) 食育会議(学期毎)					
篠栗町園巡回相談(6月、2月予定)					
学校関係者評価・自己評価(職員)・保護者アンケート実施(2月)					
◎当該園児の誕生日に保育参加・給食試食					

### ●学事計画

篠栗町在籍 134名  
 粕屋町在籍 4名  
 久山町在籍 4名

※通園バス利用園児 21名  
 (往きのみ 6名、帰りのみ 1名)

2023年度	小学校	人数
篠栗町	北勢門小学校	23名
	勢門小学校	10名
	篠栗小学校	7名
久山町	山田小学校	1名
粕屋町	大川小学校	1名

1号 77名(満3歳児 0名含む) 2号 44名 3号 21名 計 142名 (2023年4月30日現在)

## ● 研修計画

開催時期	研修・事業名	研修主体	研修内容	備考
3月26日	全体研修		経営要綱・全体的な計画	中部消防署応急手当
	学校関係者評価		学校経営、人材育成、学校評価	
	職員アンケート			
	主任・副主任会議			
4月3日	職員会議	安全管理委員会	事故発生時 アレルギー対応他	
4月4日		食育会議	アレルギー児確認、食育計画	
4月4日		九州産業大学 渡邊先生	乳児保育	
4月5日	リーダー研修	セルフケアラーニング中里氏	ハラスメント・不適切保育	
4月6日	人権意識研修	ハラスメント委員会	ハラスメント・不適切保育	
4月7日	保育環境	日本知育玩具協会	おもちゃの与え方、選び方	
4月15日	園内研修	保育カンファレンス①		
		保育環境	オンライン講座	
5月20日		保育カンファレンス②	特別支援委員会	特別支援個別支援計画
5月20日	外部研修	藤原里美先生	特別支援	
6月23日	幼小接続	西川正晃先生	幼小接続	小学校教諭
6月24日	保育環境	宍戸先生	保育環境	子どもと育ち総合研究所
	園内研修	安全管理委員会	安全管理(水遊び)他	
		保育カンファレンス③		
7月22日	園内研修	副主任・各担任	一学期振り返り	保育補助
		業務改善委員会	業務改善	
8月中旬		保育施設見学		
		絵本の読み聞かせ会		
8月1日		親子でワークショップ	おひさまや 坂本さん	
9月9日	園内研修	保育カンファレンス④		
	職員会議		運動会に向けて	
	リーダー研修			
10月21日	園内研修	保育カンファレンス⑤	特別支援	
		副主任・各担任	運動会に向けて	
	外部研修	九州産業大学 阿部先生	特別支援(言葉について)	
10月中旬	職員ヒアリング		次年度意向調査	
10月15日	園内研修	副主任・各担任	運動会振り返り	
11月中旬	幼小接続	西川正晃先生	公開保育(年長)	小学校教諭・近隣保育士
11月25日	園内研修	副主任・各担任	生活発表会に向けて	
12月23日	園内研修	各担任	2学期の振り返り	自己評価
1月27日	園内研修	副主任・各担任	1年間の振り返り	
2月17日	園内研修	副主任・各担任	次年度引継ぎ他	
3月25日	辞令交付	副主任・各担任	園のビジョン他	新入職職員参加

## ●健康管理事業(園児・職員)

2023 年度中に下記の健康管理事業を実施予定。

- ①年間を通じて定期的に身長、体重の測定。
- ②学校保健法により健康診断を実施。内科検診(年間 2 回)、歯科検診(年間 1 回)実施予定。
- ③予防接種歴・罹患歴調査票で園児の情報を保護者と共有
- ④年 1 回職員健康診断及び毎月の検便(保育教諭・栄養士・調理員・養護)

## ●子育て支援事業

### ① 預かり保育(1号)

17 時 30 分まで園児を預り異年齢児による活動(新型コロナウイルス等感染症によって変更)を実施する。また、4 月 3 日～7 日の春季長期休暇中の特別預かり保育を実施。8 月夏季長期休暇中(夏休み)に 19 日、冬季長期休暇中(冬休み)に 6 日間、春季長期休暇中(春休み)に 7 日間、8 時から 17 時 30 分まで預かり保育を実施する。(金額 1000 円/日に変更)(※7 時 30 分から 8 時まで 100 円)

※預かり保育(2・3号) 18 時から 18 時 30 分(延長保育)(30 分で 500 円)

### ②課外授業

課外教室を展開し「子育て支援」として位置付ける。幼稚園生活と課外教室の連携を図る。

ピアノ教室(月、木)・ダンス教室(火)・そろばん教室(水)・体操教室(金)を実施する。

### ③子育て支援

一日保育士体験を 10 月 16 日～実施。子育て支援センターとして、保護者に子育ての楽しさ、子どもと接する喜びを感じられるように、子育て支援事業として、一日保育士体験を実施します。保育士体験をすることで、保護者が子どもの成長をともに感じられ、子どもと関わる専門家がサポートしながら、子どもについての理解と子育てへの関心を高めていきます。また、誕生日に当該園児の保護者が来園し、保育を体験しながら、誕生日をお祝いすることを企画し、保護者と共に子どもたちの成長を分かち合う。

園庭開放を実施する予定。就園前の子どもたちが保護者と共に園に遊びに来て、遊びの場、出会いの場としての地域の幼稚園として開かれた園づくりに取り組んでいく。

## ●保育環境整備事業

◎火曜日を給食の日にする(幼稚園児対象)(弁当を選択できるが、年間で継続してもらう)

◎卒園児同窓会 ◎未就園児(入園申込方)園庭開放

◎行事の見直し 運動フェスタ(1・2 歳/3・4・5 歳)日程分ける

◎園内研修に保育補助も参加(特別支援や遊びの研修など)

☆園舎建て替え(2023 年 7 月～)

### 保育環境

◎シール帳の廃止(朝の遊びの時間を多く確保する)

◎道具箱の持ち物を見直し(3 歳まで のり・ねんど)(作品ファイル 1 つ)

◎ナフキンなし 3 歳児 食器 お皿 お盆(購入予定)



## 第 6 節 和田幼稚園の沿革

1984年度 昭和 59 年	和田幼児園開設 園長田名橋勝創設
2006年度 平成 17 年	学校法人田名橋学園和田幼稚園開園 園長 池田寿美子 就任
2014年度 平成 25 年	長期休暇中特別預かり保育開始
2013年度 平成 26 年	ホームページ開設 和田幼稚園園舎を新築
2015年度 平成 27 年	認定こども園和田幼稚園開園 和田幼稚園 10 周年記念式典 和田幼児園 30 周年記念式典 預かり保育時間の変更(7 時 30 分-18 時→7 時 30 分-17 時 30 分)
2016年度 平成 28 年	
2017年度 平成 29 年	園長 田名橋真敏 就任 保育園棟を改修 学籍園児数 146 名
2018年度 平成 30 年度	新教育要領・保育要領に伴う、和田幼稚園の運営規定一部変更 預かり保育環境の見直し(保育園・幼稚園を分ける) ICT化による業務効率化(バスキャッチ導入) 職員の勤務時間の見える化(シフト表作成) 通園バス(園児 39 名乗車)を購入 登園・降園時間の変更(9 時 10 分→9 時、15 時 30 分→15 時 20 分) 新入園児の入園検定料(1000 円)廃止 保護者会費を校納金に変更
2019年度 令和元年度	幼稚園の働き方改革 就業規則の見直し(職員の就業時間実績確認、有給休暇消化率確認) 人材育成制度構築(評価制度) 食育事業の推進(栄養士による食育体験) 保育環境見直し(幼稚園ホールを保育室に改修)4・5 歳児/1・2・3 歳児で園舎を分ける
2020年度 令和 2 年度	預かり保育事業 18 時～18 時 30 分 保育園児(1 歳 3 ヶ月(2019 年度)から 1 歳(2020 年度))受け入れの年齢変更 子育て支援(年間 2 回)(7 月 18 日・9 月 26 日(実施予定))(コロナのため中止) 主任・副主任等キャリアパスの構築 長期特別預かり保育料一日 1500 円→1000 円に変更 警備を強化(ALSOK)
2021年度 令和 3 年度	保育の見直し、保育環境の見直し 1 歳児洗面台設置、遊戯室倉庫設置 長期特別預かり保育時間 8 時から 7 時 30 分(別途料金 100 円)に変更 月一回の健康チェック、ストレスチェック(Geppo) 連絡アプリ「おうちえん」の利用開始

2022年度 令和4年度	ICT化を促進(スマートフォンをクラス担任に1台) 職員の働き方改善 業務改善委員会の設置(業務改善に取り組む) 保育の見える化促進(クラスだよりをドキュメンテーションへ) 保育の質向上に取り組む(月案・週案の見直し、教育保育要領に基づいた自己評価を開始)
2023年度 令和5年度	
2024年度 令和6年度	園舎建て替え開始
2025年度 令和7年度	新園舎(1・2・3歳児棟)